

平成 29 年度 第 1 回学校評議員会 報告

1 出席者

- (1) 学校評議員 浜松学院大学
NPO ぐらしえん・しごとえん代表理事
天竜厚生会障がい者支援事業部長
渡ヶ島自治会長
- (2) 本校 校長 事務長 教頭

以上 7 人

2 日 時 平成 29 年 6 月 23 日 (木) 9:30～11:30

3 内 容

- (1) 校長挨拶
- (2) 評議員委嘱
- (3) 自己紹介
- (4) 学校概要説明
- (5) 校内見学
- (6) 学校経営計画説明
- (7) 意見交換

4 御意見

地域で生きていくために

- ・天特の子たちは心が見えないので関わり方が難しい。どう接したらよいかを考えるとときにこれまでの情報があるとよい。
- ・移行支援計画や教育支援計画には良くないあらわれは書かれていない。問題が発生したときに必要で。これまでの実態を知って対応していきたい。
- ・相談支援事業所は制度としては広がってきているが人材育成はまだまだである。
- ・就労継続支援では地域の介護施設や企業との連携を強化し一般就労を目指している。サービスの利用や情報等の活用をして欲しい。
- ・放課後の少しの時間、地域で過ごすような場所があるとよい。地域と少しだけ関わるもの。学校とは違い、仕事の手伝いをするのとも違うものが学校の近くにあるとよい。

教育支援計画の在り方

- ・福祉との連携にはもちろんのこと他分野とのネットワークが必要になる。集団生活よりも個々のアセスメントが必要になる。
- ・コミュニケーションスキルを育てようとしているが、本人だけの問題ではない。伝わらない相手の問題もある。前籍校へ戻ったときの学校側での準備と

して支援計画があるとよい。

- 障がいがあるなしに関係ない。何かあったときにサポートが受けられるためのもの。自分のことが分かって困ったときにどこに行けばよいか分かることが大事。
- 情報の伝達ということではこれまでの経歴も必要である。
- 困ったときの対処法を知るだけではだめ。生まれてからの情報を次に託していくようなもの。目的をもってこうしてきたという思いが伝わるようなものが欲しい。